

製品名: NFAT5 (リン酸化Ser155) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05084**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	200kDa

抗原情報

遺伝子名	NFAT5
別名	NFAT5; KIAA0827; TONEBP; Nuclear factor of activated T-cells 5; NF-AT5; T-cell transcription factor NFAT5; Tonicity-responsive enhancer-binding protein; TonE-binding protein; TonEBP
遺伝子 ID	10725.0
SwissProt ID	O94916
免疫原	抗血清は、Ser155 のリン酸化部位周辺のヒト NFAT5/TonEBP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

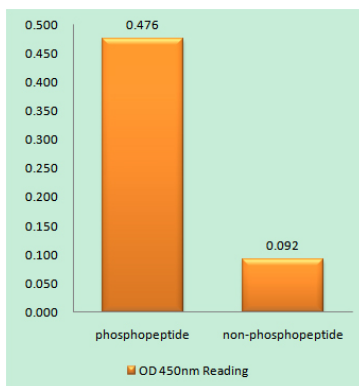
背景

この遺伝子産物は、活性化T細胞核因子ファミリーの転写因子のメンバーです。このファミリーに属するタンパク質は、免疫応答中の誘導性遺伝子転写において中心的な役割を果たします。このタンパク質は、哺乳類細胞において浸透圧ストレスによって誘導される遺伝子発現を制御します。このタンパク質ファミリーの単量体メンバーとは異なり、このタンパク質はホモ二量体として存在し、DNA要素と安定した二量体を形成します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2008年7月]、代替製品:一部のアイソフォームでは実験的確認が不足している可能性があります、機能:遺伝子の誘導性発現に役割を果たします。高張性によって引き起こされる浸透圧調節物質の細胞内蓄積を制御します。、類似性:1つのRHD (Rel様) ドメインを含みます。、サブユニット:FosおよびJun転写因子とは結合しません。しかし、DNA要素と安定な二量体を形成する可能性がある。、組織特異性:骨格筋、脳、心臓、末梢白血球に最も多く存在する。胎盤、肺、肝臓、腎臓、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸にも発現する。、

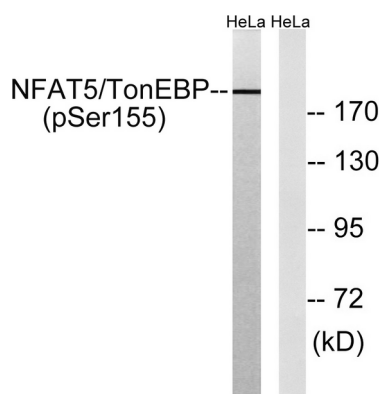
研究分野

WNT;WNT-T細胞軸索ガイダンス;VEGF;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;T細胞受容体;B細胞抗原;

画像データ



NFAT5/TonEBP (リン酸化 Ser155) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



フォルスコリン 40nM 30μL 処理した HeLa 細胞ライセートの NFAT5/TonEBP (リン酸化 Ser155) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。